

# 被災地で起業や就職

## 参加者、熱いプラン発表

三島のNPO主催

東日本大震災の被災地、教町の日大国際関係学部で起業や就職を目指す人たちが対象にした研修が七日、三島市文

を發表した。

魚介類の陸上養殖を

目指す川崎市川崎区の

住宅設備業中田直行さ

ん(三島)は「震災で辞めた漁師さんに水産の知識を生かして働いてほしい」と計画案を披露。東京都文京区の写真店員谷かをるさん(二七)は「津波で写真が一枚も残っていない人

したい」と熱く語った。研修は三島市のNPO法人グラウンドワーが主催。四日から五日間の日程で、被災地からの八十二人が含む百六十五人が参加している。宮城県石巻市から参加した高橋ひらみさん(二七)は「被災



東日本大震災の被災地で取り組みたい事業を熱く語る参加者ら＝三島市文教町で

地以外からも大勢集まり、真剣に考えてくれていると感じた」と話した。

同法人は九月七日まで、被災地支援のビジネスプランを一般公募。十月中旬にすぐれたプランを提案した五十人を選抜し、一人当たり最大二百五十万円を支援する。

(山田晃史)